

3829 地球のかおり：「風の休憩時間」(産経新聞)・心模様

夢は自分で創るもの。夢に向かって、日々挑戦を続けながら暮らす。

人生の旅、そして、地球ひとり行脚。谷あり山あり。七転び八起きが続く。

思い通りにならない自然。厳父のような厳しさ、慈母のようなまなざし。驚異と神秘。

大自然の表現も様々。

西オーストラリア、パース北上。ノーザンテリトリーで出会った一コマ。

北半球、南半球、時が違う。灼熱の太陽の下。口だけでなく、心の渇きまで感じて歩いていた時、微かな風と水の香りと共に飛び込んできた眼前の光景。

潮の干満。風^{なぎ}の時なのか。風がつかの間の休憩をとっている穏やかなひと時。

心が落ち着き、澄みわたるようだった。風の休憩時間というより、私の心の休憩時間だった。

日常と違うことをやると、新しい発見がある。大の大人が、子供心のようになって、人のやらない、人の行かないところへ行く。

好奇心、冒険、未知への挑戦には、感動の出会いがある。

人生という旅、地球ひとり行脚という旅のスタイル。見えるもの、感じるものが違う。

なんでもない光景だが、この道中での出会い。見過ごし通りすぎることもある。

一期一会、心の有り様で感じ方が違う。状況で感じ方も違ってくる。

この日のご対面は、少数の生きものだけ。まず、目に飛び込んできたのは、船。

こんな辺境に人がいる？ 不便な所というより、何もない辺境。

旅人だろうか、まさか住人。立派に見えない船が、印象的だった。

興味を持ったのは言うまでもない。だが、人影は見当たらない。幻ではない。

近づくにしがって、水の美しさが、心をとらえた。

靴を脱いで、水の中へ。足の先から、目から、身体全体に、何ともいえない心地よさ。

何事も、急げ、急げという、スピードという時代。

日々の生活で、忘れかけている大切なものが、この光景の奥深いところにある。

脱日常やビジネスの対極にあるものに、新しい発見がある。

人生という旅、地球ひとり行脚という旅、夢に向かって挑戦している果報者。

厳しい試練の後だけに、喜びもひとしお。

緊張と弛緩、苦闘との戦い、いや、自分との戦い。

ギャップが大きければ大きいほど、充実感は違うように思う。

目的を持たなかったのが、良かったように思う。自然に身をゆだねる。

時空を超えた作品、単純に美しい光景の大切さ。昨今の不安定な天気や様々な災害。

自然を破壊してきた人類への警鐘かも…

たかが、眼前のワンショットだが、奥深いところにあるものを感じとりたい。

風の休憩時間、時に人間も。休憩というより、ちょっと時間を止めてと、言いたくなる。

何よりも、心に響く、美しい自然を、後進に残したい。

美味しい水や空気、失って、初めて気づくもの。再生はできない。

痛感する。残っている、日本の素晴らしい、美しい山河。大切にしたいもの。

山はみどり、野に花、人にはこころ。

アトリエ久楽には、いろいろな作品が残る。増え続けている。

ゴミになるのか、残るのか、そんなことは、今の久楽には、関心事でない。

今、やりたいことを継続して行けたら最高。先のことはわからない。

しばし、足元の整理と小さな旅。風の休憩時間のように。